



日本記者クラブ記者会見

## オリンピックとアマチュアリズム

アベリー・ブランデージ 国際オリンピック委員会会長

1972年1月25日・帝国ホテル「桜の間」

page 2

美術館、博物館をみたい・・・

オリンピックは社会運動

page 3

アマチュアリズムとマテリアリズムの対決

page 4

ユニフォームと広告

IOCは現実離れ？

商業主義と国家

page 6

ルールを厳重に守る

© 日本記者クラブ

私は再び日本を訪問いたしましたことについて大変うれしく思っております。ご承知のように日本はとくに私の大好きな国です。すでに日本は大変りっぱなオリンピック国であることはいうまでもありません。1964年に開催した第18回オリンピックの時にも日本はオリンピック一等国であるということをし上げました。また再び日本は冬のオリンピックの一等国になるものと期待しております。私が日本を好きな理由は、日本の文化、とくに日本の歴史、芸術について、関心をもっているからです。私は自分の東洋美術のコレクションをもっておりますので、日本にくることはいつも楽しみにしております。

#### **美術館、博物館をみたい・・・**

私は以前から日本の文化について大変興味をもっております。それを示す一つのおもしろい話があります。数年前私が日本にまいりました時に、日本オリンピック委員会は運動競技設備とか野球の設備とかプールばかり案内してくれたわけです。私はすでにそういうものは見ておりますので、「そういうものは結構です。日本の美術館、博物館をみたい」というような議論をやったことがあります。その時に梅原教授ならびに矢代先生にお願いして、日本オリンピック委員会の幹部の方を博物館、美術館 おそらくその当時初めて博物館に入るような方たちでしたが に連れてまいりました。逆に文化人の方を競技施設スポーツ施設に案内しました。そういう文化とスポーツの交流を、自分で仕掛けたことがあります。

今の話を申し上げたのはオリンピック・スローガンの中には、スポーツだけでなく立派な文化スローガンもふくまれていることを、もう一度皆さんの記憶に想起したいと思ったからです。1964年の東京オリンピックの時も、大変りっぱなカルチャ・プログラムがふくまれてい

ました。日本の能、歌舞伎、また逆に西洋のオペラまで非常に立派な文化プログラムが予定されていたわけです。

日本の法律によりまして、国宝や重要文化財は、国外に持ち出すことは禁止されておりますので、こういう日本の文化を象徴する立派なものをみるには、日本にくる以外はありません。

私は今日、皆さんから招待をうけましたことを大変うれしく思っております。なぜならば、私はプレス(報道)というものはオリンピック委員会にとって、もっとも大切な存在と考えているからです。皆さまによってオリンピックの正しい行動、あるいはオリンピック思想というものをも十全に伝えられるということは、オリンピック運動のためにも貢献するに相違ないと思っています。

#### **オリンピックは社会運動**

私は今やオリンピックの運動というものは、世界でもっとも力のある社会的運動だと考えております。われわれの基本的なプリンシプルは、あくまで、“差別しない”ことであります。さらに青少年の体育教育に寄与すること、あるいは政治、宗教、人種という問題をいっさいなくするということが、オリンピックの大切な精神だと思います。

もう一つのオリンピックの原則は同じ条件、同等にあつかうということだと思います。競走においては、すべての競技者に公平であるということがオリンピックでもっとも大事なことだと思います。現在世界で問題が起きているというのは、どちらかというとフェアプレイが行われていない、あるいはグッド・スポーツマンシップというものが守られていない、ということから起きてきていると思っています。

近代オリンピックの復活と創立者の考えは、ただただ競技者が優勝してメダルをもらうことだけではなく、もっとそのような精神面が強調されたわけです。その強調された高い水準の原則というものが、ただスポーツだけではなく人間の社会生活、政治、経済にも影響することを理想としたので復活されたわけです。

### アマチュアリズムとマテリアリズムの対決

オリンピックの中で、いつも問題になるのはアマチュアリズムというものとマテリアリズムとの対決です。アマチュアリズムというものはあくまで競技者がそのスポーツに関心を持ち、自分を、もっとよくするために努力することによって満足感を感じるものです。物質的なものというものは、ただただ自分の参加するものによって金をもらうということで、スポーツというよりも仕事ということになるわけです。私の個人的な観察ですが、日本が戦後これだけ経済的に成長した理由は、やはりオリンピックの思想とプリンシプルというものが日本に浸透したからだというふうに感じます。そういうようなものが、やはり日本の戦後の経済復興に大変役にたったということが、私の個人的な観察です。

そこで現在の問題に話をうつします。きたる第11回冬期オリンピック大会は札幌で予定通り開催いたします。しかしIOCとしての義務は、あくまでオリンピックルールに従ったもので開催しなければなりません。オリンピックの中にはいろいろなルールがありますが、とくに資格の問題があります。これは厳重に守ってもらわなければならないと思います。このルールは、あくまでスポーツをスポーツとしてそれに参加する、あるいは興味、楽しむための選手を守るためのコードであり、スポーツをビジネスに利用する人間を除外するためのコードであると思っております。ご承知の通りこのアマチ

ュア問題につきましては、もう過去数年間論議されてまいりました。私からみれば非常に簡単な問題だと思えます。アマチュア・スポーツマンというのは二種類しかない。一つは先程申しました通り、スポーツに参加することによって感激をうけ、努力する人、すなわち自分をよくするために参加する人。もう一つは金をもらったのスポーツに関心をもつ人。スポーツではなくてエンターテインメントだと感じておりません。残念ながら、この二通りのスポーツマンが、世界の目で同じく扱われているということが過去から起きている問題の原因だと思えます。私はむしろ経済的理由でスポーツに参加するものはスポーツ欄ではなく、芸能あるいはほかの欄でとりあげていくべきものだと考えております。

われわれは現在、物質的な世界に存在するわけです。オリンピック運動は、精神的なムーブメントです。オリンピックは年々成功することによっていろいろとペナルティが課せられます。ペナルティというのは成功がもたらす悩みであり、それが成功すればするほど、政治的干渉、商業主義からくる圧力が年々ふえてまいります。われわれIOCとしましては、こういうものに対して、あくまでがんばる気持をもっております。できるだけオリンピックをきれいなものにし、また純粋なものにし、オリンピックが世界からうける尊敬を大事にしたいと思えます。ぜひ皆様のご協力と援助によって、オリンピックの思想、あるいは理念というものを守りたいということをお願いしてごあいさつにかえたいと思えます。

### 質 疑 応 答

**質問:**昨日FISの代表が札幌で行った発言  
組織委員会に対してスイスの代表が、スキー用具あるいは選手のユニフォームに広告のよ

うなものがあつた場合は厳重に扱ってもらいたいという意見 についてコメントしていただきたい。

### ユニフォームと広告

答: オリンピックの規則ではオリンピックを開催する競技施設には何らそういう広告、宣伝は書けないというルールになっております。それをさらに、前回のオリンピックの時に、競技場のみならず、参加する競技者のもっている用具、ユニフォームにも広告をのせないというように拡大いたしました。われわれは競技者が自分の名前、または写真を、そういう商業的広告に掲載し、あるいは利用させるということは、すでにその時点において業者のエージェントであると解釈しております。したがってこういうような競技者を、オリンピックに参加させるということはオリンピックの権威をおとすものであって、われわれとしては厳重に扱いたいと思っております。

新聞社ならびにテレビ関係者も違う立場で注目すべきだと思います。競技者が、自分のユニフォームその他に業者のマークをつけ、宣伝をするということは、これはテレビ、雑誌、新聞がただの広告を出してやっているということになる。従って皆さんも関心をもつべきだと思います。

質問: オーストリアチームが今日メンバーを発表したが、この中にシュランツを登録すると発表しています。これについてコメントをお願いします。

答: 皆さんすでにこの問題についての私の意見はおわかりだと思いますが、今の質問に対しては、近く委員会が開かれるまでは私のコメントは一応遠慮させていただきます。

質問: 最近とみにIOCは批判され、何か現実とかけはなれているというような批判をよく聞きます。とくにフィンランドのケコネン氏が最近IOCについての意見を発表しておりますが、それについてのご意見、あるいはIOCとしては、将来改革していくという考え方をもちかどうか伺いたい。

### IOCは現実離れ?

答: その意見は私には直接伝えられておりませんが、あるIOCメンバーにはその意見が伝えられていると聞いております。その意見について申し上げれば、現在までオリンピックが成功してきたのはそのユニークな形、ユニークな方法によってオリンピックというものがIOCを中心として成立してきたからです。なぜならばIOCメンバーというのは、そのスポーツあるいはその国の代表としてIOCのメンバーにはなっておりません。IOCメンバーはその国におけるオリンピックムーブメントを守り、推進する役員で任命されております。IOCメンバーは、オリンピック委員会に出席する時は、何かをかちとって帰るためにくるのではなく、いかにして与えるかという態度がIOCメンバーとして義務づけられたものです。そのIOCの現在までの形を他の世界的な団体と比較するならば、いかに違うか、いかに清潔かということがわかりいただけだと思います。その辺の判断は皆さんにおまかせいたします。

質問: オリンピックにおける商業主義というものに関連してのブランデーさんの批判は、国家選手についても同じであるのかどうか。

### 商業主義と国家

答: ステートアマまたはスポーツ奨学金の問題はほとんど同じ問題として考えられると思います。当然こういうものが存在するならば、それはオリンピックレギュレーションに相反す

るものだと思います。このステートアマの問題は最近起きた問題ではなく戦前から懸念され、あるいは論じられてきた問題です。われわれは現在これに対するはっきりした違反の証拠をもっておりません。ですから、われわれはその問題とされている国のNOCに対しこの問題を研究してもらっているわけです。このNOCの保証のもとにわれわれがそれを解釈しているわけです。奨学金の問題でも各国によっていろんな種類の奨学金がありますので、はっきり証拠をつかむということはなかなかむずかしいと思います。

**質問：**会社の従業員で、ほとんどスポーツに従事している 会社そのものがそのスポーツに従事している 人間も同じ扱いを受けるか。また今度のオリンピックの時に違反者として取り扱われるかどうか。

**答：**会社の従業員というよりも競技者がその勤めている会社の製品、あるいは名前のついたものを着用するというのでは違反だと思います。違反したからといってすぐ今度のオリンピックから除名するということは私はやりません。しかるべき委員会の方で検討して、その問題を取り上げることになっております。

**三輪（NHK）：**資格委員会というのは、ブランドページ会長もその委員の一人でしょうか。あるいは何らかの勧告的な意見を委員会にお出しになるのかどうか。それからシュランツ選手はじめ、容疑のもたれている選手が相当大勢札幌にくるんじゃないかと思われるんですが、それに関連して、札幌オリンピックの中のスキー種目はずして世界選手権にするというお考えがあったと伝えられていますが、今なおそういうことを考えておられるのかどうか。

**答：**私は資格審査委員会のメンバーではありませんが、IOC会長としてすべての委員会に関係はあります。私が今さらコミッションに対して意見を申し上げるまでもなく、コミッションのみならずIOCメンバー全員が私のこの問題についての意見を十分わかっていると思います。

**質問：**IOC憲章の第26条に、競技者が個人的に広告に利用されてはならないという規定がありますが、個人的という言葉には特別の意味があるのでしょうか。これは個人的でなければ良いというふうにとれるのか、見解をお伺いしたいと思います。

**答：**例を上げてお答えいたしますが、もしかりに日本のオリンピック委員会があるスポーツのチームのために一種類の用具あるいは道具を使った場合、その業者が、オリンピックチームはわれわれの道具を使ったということについては、なんら問題はないと思います。ただその中の一人の競技者が自分の名前、または写真をその業者の製品を宣伝する意味で使わせるということは問題になる。その意味で個人的な意味が出てきているわけです。個人の場合と団体の場合とをはっきりわかるために、個人という言葉を使ったわけです。

**質問：**たとえば、フランスのスキーチームが、フランスのあるメーカーのスキーを使って世界選手権に勝った場合に、そのメーカーがフランスのスキーチームはわれわれのスキー用具を使って優勝した、と宣伝しても問題にはならないのですか。

**答：**そういうケースは、今までなかったと思いますが、とくに選手なり、写真なりを使わなければそういう言葉を使うということに対しては別に問題はないと思います。でもケースによ

って違いますので、今はっきりはお答えできません。

**羽仁（ジャパントイムズ）:** 先ほどのNHKの方の第二の質問にお答えいただいているので、それにお答えいただきたい。つぎに日本側の主催者としては、札幌オリンピックを成功させたいというのが強い願いだと思いますが、アマチュア問題で、たとえばスキー種目がはずされるとなれば成功は得られなくなる。アマチュアリズムの純粋性とオリンピック大会の成功というのは、双方とも先程から会長がいわれるオリンピックムーブメントの役に立つことだと思いますけれども、その二つの関係をどういうふうに考えておられるか。

#### **ルールを厳重に守る**

**答:** 私はこの際厳重にIOCのルールを守らなければ、将来オリンピックムーブメントならびにオリンピック大会が重大な影響をうけると思います。11回目の札幌大会は、もちろんスキーもそうですが、すべてスケジュール通りに開催されることになっております。ただ厳重にルールを守ることについては、私は先程申し上げた通り実行したいと思います。もし違反者と称する者があるならば、ルールに従って扱いたいと思います。これは新しい問題ではなく、過去においてもそういうような違反者に対しては、各方面から十分警告しております。8年前のインスブルグ大会からこのスキー問題は表面に出ておりますので、多少しわよせがどこかに出てもやむを得ないと思います。

**伊藤（東京新聞）:** 資格審査委員会は何を基準に行われるのでしょうか。またIOC及び資格審査委員会では違反したとみられる選手の明確な証拠をおもちなのかどうか。

**答:** この問題につきましてはIOCには大変な

ハンディキャップがあると思います。ご承知の通りオリンピックに参加する競技者は何千人もいるということでありまして、したがってIOC自体といたしましては十分に一人一人の選手について把握することが困難であります。したがってIOCといたしましてはあくまで各国の良心に依存しなければならない立場にあります。今現在IOCの中では130カ国のNOCが認められております。この130カ国のNOCは違う管理、違うしきたり、違う言葉というものによって、意見あるいは物の解釈はまちまちでありました。IOCはなるべくこれを同じような解釈に統一すべく努力してまいりましたが、なかなかむずかしい問題です。現在IOCの事務局では違反者と称されている人間についていろいろと資料を集めております。また必要に応じて各国のNOCに対して調査を依頼したり、インフォメーションを求めております。したがって今後の資格審査委員会は、こういうものをその他の情勢、情報を基準として、どういうふうにあつかうかということを決めなければならないと思います。もっと早く資格審査委員会を開催すべきだとの意見もずい分ありましたが、ご承知の通り誰が出場するかということはまぎわまでわからないことですので、今まで開催出来なかったわけでありまして。

文責・編集部